

補助に向け支援の手を



議員 葉子 宮地

**問** 学校給食は教育である。教育は憲法26条で「これを無償とする」と定められている。貧困の格差の拡大は子どもたちへの影響が大きく、子ども食堂の実施などは、今の世情を反映していると思う。全国で学校給食への補助がこの5年間で急増しており、全額無償の自治体や、半額、3割補助、または第2子、第3子への補助等々、様々な工夫をこらしている。黒潮町でも何らかの施策で、手を差し伸べることはできないか。

今後の検討課題

**答** 坂本 教育長

子育て支援は、より支援の必要な家庭、教育上の課題への支援を基本としており、就学援助の拡充等で支援をしてきている。学校給食は教育であるが、支援については財政的な問題が大きく、今後の検討課題と考える。

避難所運営

民主的な運営が  
大事では  
訓練を繰り返し  
浸透を図る

**問**

「避難所運営マニュアル作り」の検討委員会があった。災害後、避難所で様々な状況の住民が狭い所で集団生活を送ることになるが、そこで運営は行政ではなく、住民で行わなければならない。住民に簡単に読みやすいチラシ

などを全戸に配布し、情報提供が必要ではないか。

また避難所運営は、炊き出しや掃除は女性、リーダーは男性などと従来の性別や年齢等の考えではなく、負担が偏らないように役割を分担する民主的な運営が大事だと教わった。それらの周知も必要ではないか。

**答** 松本 情報防災課長

災害発生直後から町職員は災害対策本部を立ち上げ、町全体の復興に取りかからなければならぬので、避難所運営は地域住民で行なうことになる。避難所運営マニュアルはそれらを想定して作成しており、今後それらを活用した訓練を繰り返し実施し、住民の共通認識としていく事が大事だ。住民へのチラシ配布は検討したい。

文化財保護

遺跡・遺物の  
保存を

看板や展示等  
検討する

**問**

今回発掘した入野城遺跡を何らかの形で残せないか。ふるさと総合センターにある大方地域で発掘された遺物や、展示の壺2点も含めて、津波被害を考えれば、新庁舎

への展示、保存が検討されるべきではないか。

**答** 坂本 教育長

入野城遺跡は貴重な遺跡と考える。残すために、碑や看板等を建てる検討をする。ふるさと総合センターにある壺、土器、石器類は新庁舎への展示も考慮に入れ、保存保護に向けて検討する。



入野城遺跡発掘現場での説明会  
(上と右)